

わたしの修習時代

紀尾井町：1948-70

湯島：1971-93

和光：1994-

59期(2005/平成17年)

ひとときのモラトリアム

会員 木下 学 (59期)

私は59期。2005(平成17)年4月に研修所に入所。2006(平成18)年9月まで1年6か月の修習を受けた。

前期修習は和光の研修所。1クラス75名のクラスが20クラスあり、私は10組。和気藹々とした雰囲気のあるクラスで、教官も温かかった。健康管理(ソフトボール大会)がまだ残っているなど、のどかな空気があった。帰りは毎晩のように飲み歩いた。和光市駅手前に焼き鳥の立ち呑みがあり、そこで時間調整をして次のお店に飲みに行く。そんなパターンが多かった。教官も同期みたいな感覚で付き合ってくれた。

6月下旬から実務修習。私は大阪修習だった。森之宮の公団住宅に間借りしたが、その引っ越し初日、電気が点かなかった。寝具も何もない。仕方ないので、駅近くのコンビニでろうそくを買い、ダンボールを大量にもらい、それで寝泊まりした。電気は翌日に点いて、ろうそく生活は一日だけだったが、ダンボールのふとんは意外にも寝心地が良く、一週間ほどはそれで過ごした。そのうちに早朝からけたたましくクマゼミの鳴く、灼熱地獄の大阪になった。

そもそも希望地に大阪は挙げていなかった。なぜ大阪になったのだろう。最初にそれを聞いたときは驚天動地。河内弁の早口でガミガミと嫌みを言われたらどうしよう。そんな不安があった。しかし、来てみるとそんなことはなかった。人が実に温かい。ユーモアもたっぷり。飲食店でお勘定のとき「800万円」と言われた。最初はびっくり。そのうちに私も「はい。おつり200万円」と返せるようになった。

17時になるとサイクリング。土日もサイクリング。

大阪がよっぽど物珍しかったのか、市内をママチャリで走り回った。無料の渡し船が市内に何か所もあり、それに乗りに行ったり。恐る恐る西成を彷徨ったり。そこにはお兄さんが一本指で合図してくる見知らぬ世界があった。それと、90歳くらいのおばあちゃんの営むお好み焼きによく行った。粉もんの街大阪。そのお店はけっして美味しくないのだが、おばあちゃんの手もとの挙動がおもしろかった。で、そのママチャリ。最終的に盗まれた。

17時までの実務修習もおもしろイベントが満載であった。すりの目線を教わるすり研修。パトカー同乗研修では飛田新地のお姉さんが後部座席の私たちに手を振ってくれた。捕まった人だと思ったに違いない。海上保安庁の船で大阪湾クルーズ。少年院。近鉄西大寺検車区。鈴鹿サーキット。刑務所。美浜原発。ごみリサイクルセンターで一日中資源ゴミの仕分け。などなど。家裁の修習で名の変更許可事件の審尋に同席したとき、申立人の話があまりにもおもしろく、まさに受けを狙ってるだろうという感じであった。修習生4人で笑いをじっとこらえる。私がとうとう吹き出す。みんなこらえきれず一斉に大爆笑。そんな不謹慎なこともあった。

和光に戻って後期修習。まだまだ物見遊山気分の抜けない私。このままでは二回試験が危うい。そんなとある日、ようやくスイッチが入った。事実摘示記載例集を手書きで丸写し。同期の優秀起案も手書きで丸写し。それらと白表紙を速読用に色分けして、飛ばし読みに近いのだが、電車やバスで繰り返し繰り返し読んで頭に刷り込む。そんな勉強法で何とか二回試験をクリアした。最後はがんばった。